

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

YNU initiative（学士課程）	p. 1
教育学部	p. 4
経済学部	p. 6
経営学部	p. 8
理工学部	p.10
都市科学部	p.19

YNU initiative（学士課程）

横浜国立大学（YNU）が求める学生像

YNU は、4つの実践的「知」すなわち「知識・教養」「思考力」「コミュニケーション力」「倫理観・責任感」を身に付けた人材の育成を目指す。よって、自然に恵まれた常盤台キャンパスで学問を学び、世界中からの友と語らい、柔軟な発想と主体的・創造的な課題探究・解決能力を身に付け、社会のリーダーとしてグローバルな共生社会への貢献を目指す次に示す人の入学を求める。

- 入学後の修学に必要な幅広い基礎学力を備え、確かな知識や技能を身に付けたい人
- 知的好奇心や科学的探究心を持ち、新たな発見やアイデアを創造する思考力や判断力を獲得したい人
- 社会が直面する諸課題を解決するために、多様な人々と協働して主体的に社会へ参画する強い意志と責任感を持ちたい人
- 国境を超えたグローバル時代において、外国人学生と共にコミュニケーション力を高め、世界を舞台に発信・飛躍したい人
- 大学院に進学し、さらに高度の知識・技能を身に付け、高度専門職業人として社会に貢献したい人

横浜国立大学（YNU）が入学者に求める知識や能力・水準

YNU が入学者に求める知識や能力・水準は、学部、学科・課程（学士の学位を授与する教育課程プログラム）ごとに卒業認定・学位授与の方針（Policy 1 ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（Policy 2 カリキュラム・ポリシー）を踏まえ定める。

横浜国立大学（YNU）の入学者選抜の基本方針

YNU の大学入学選抜は、入学者が高等学校段階までに身に付けた力を、大学が発展・向上させ、社会に送り出す大学教育システムを前提に、学部、学科・課程（学士の学位を授与する教育課程プログラム）の卒業認定・学位授与の方針（Policy 1 ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（Policy 2 カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、入学志願者に求める学力を構成する 3 つの要素（※）を多面的・総合的に評価するものとする。学部、学科・課程は、高等学校で履修すべき科目等をあらかじめ具体的に明示するとともに、大学入学後の教育課程プログラムとの関連を十分に踏まえつつ、次に掲げる学力検査の実施方針に基づき入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

※学力を構成する 3 つの要素

- ・基礎的・基本的な知識・技能
- ・知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力
- ・主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

学力検査の実施方針

- 個別学力検査等は、高等学校学習指導要領に準拠し、高等学校教育の正常な発展の障害とならないよう十分留意し、適切な方法により実施する。
- 個別学力検査等を実施する教科・科目は、学部、学科・課程（学士の学位を授与する教育課程プログラム）ごとに、卒業認定・学位授与の方針（Policy 1 ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（Policy 2 カリキュラム・ポリシー）を踏まえ設定する。
- 総合型選抜は、知識・技能の修得状況に重点を置いた選抜基準とせず、口頭試問等の検査、大学入学共通テストの成績などの活用により入学志願者の能力、適性、意欲、関心等を多面的・総合的に判定する。

- 学校推薦型選抜は、高等学校の教科の学習成績概評を出願要件や合格判定に用い、筆記や実技、口頭試問等の検査、大学入学共通テストの成績などの活用により入学志願者の能力・適性等を多面的、総合的に判定する。
- 帰国生徒選抜・外国学校出身者選抜・社会人選抜は、外国における教育事情の違いや高等学校等卒業後の年月の経過などに鑑み、広く入学志願者の能力・適性等に応じ選抜がなされるよう学力検査の全部又は一部免除を図り、小論文や面接等を適切に組み合わせて入学志願者の能力・適性等を多面的、総合的に判定する。

障がいのある入学志願者の合理的配慮

障がいのある入学志願者に対しては、障害者基本法や障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の趣旨に十分留意し、その能力・適性、学習の成果等を適切に評価するため、次に掲げる例示による必要な合理的配慮を行い、障がいのない学生と公平に試験を受けられるように配慮する。また、入試における配慮の内容など情報アクセシビリティに配慮して広く情報の公開とともに、事前相談の時期や方法について十分配慮し、事前相談体制の充実に努める。

- 点字・拡大文字による出題、拡大解答用紙の作成など
- 特定試験場の設定、試験会場への乗用車での入構、座席指定の工夫など
- 試験時間の延長、文書による注意事項の伝達、試験室入り口までの付添者の同伴、介助者の配置など

教育学部／学校教員養成課程

教育学部（学校教員養成課程）が求める学生像

教育学部の教育理念は、教育現場の未来を支えるべく、多面的かつ包括的な視野と洞察力とを兼ね備え、社会の変化に柔軟に対応できる次世代の教員養成を目指すことにある。教育学部（学校教員養成課程）は、学校教育に関心が高く、教員として子供の学びへの支援の方法を能動的かつ協働的に創造していこうとする強い熱意を有する、次に示す人を求める。

- 教員として、子供とコミュニケーションをとりながら共に学び続けたい人
- 学校教育の充実、創造に貢献したい人
- 特別支援教育の充実、創造に貢献したい人
- 現代的な教育課題に対して、他者と協働的に広い視野に立った解決策を構想し実践したい人

教育学部（学校教員養成課程）が入学者に求める知識や能力・水準

教育学部（学校教員養成課程）が入学者に求める知識や能力・水準は次によるものとする。

- 子供と共に未来を切り拓いていくために、高等学校までに身に付けた知識・技能を現代的教育課題の解決に活用する力
- 高等学校までに身に付けた知識・技能を前提とし、現代的教育課題の解決に必要な視野の広い思考力・判断力・表現力
- 教員として子供と関わり、主体性を持って多様な人々と協働しつつ学ぶ態度やコミュニケーション能力

教育学部（学校教員養成課程）の入学者選抜の基本方針

教育学部(学校教員養成課程)では、教職への関心・意欲・態度と入学者に求める知識や能力・水準を確認し、学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）等を評価するために複数の受験機会と多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テスト（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）の成績、調査書及び自己推薦書の内容、面接試験及び小論文試験あるいは実技検査の成績を総合的に評価して選抜を行う。教員となるにふさわしい資質・能力を評価する。

総合型選抜

第1次選抜では自己推薦書、調査書及び課題レポートの内容、小論文試験の成績による総合的評価、第2次選抜では面接試験により選抜を行い、大学入学共通テスト（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）の成績により最終合格者を決定する。面接試験では、小学校教員を志す者として、教育に対する情熱やコミュニケーション能力を有するかを総合的に評価する。

学校推薦型選抜

小論文試験及び個人面接試験の成績、推薦書、調査書、志願理由書及び自己推薦書の内容、英語専門領域を志願する者のみ外部試験の成績、音楽専門領域を志願する者のみ聴音の実技検査の成績を総合的に評価する。小論文試験では、主として教育や人間に関する日本語の文章や資料を素材として、理解力、思考力、表現力を評価する。個人面接試験では、教員になるための意欲と資質を評価する。

帰国生徒選抜

小論文試験及び個人面接試験の成績、学業成績証明書、志願理由書及び自己推薦書の内容を総合的に評価する。小論文試験では、主として教育や人間に関する日本語の文章や資料を素材として、理解力、思考力、表現力を評価する。個人面接試験では、教員になるための意欲と資質を評価する。

経済学部／経済学科

経済学部（経済学科）が求める学生像

経済学部は、経済社会の重要な問題を把握し、明晰な分析能力を備えて、問題解決の方向を探究する力をもち、必要な情報にアクセスしてそれらを情報発信できる力をもった人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

経済学部経済学科が求める学生像

- 経済・社会・歴史・制度・法律に深い関心を持ち、世界経済を長期的に展望する能力を育み、国際社会が抱える問題の解決に取り組みたい人
- 市場システム・経済社会制度を学び、経済学的手法で経済社会の諸問題の解決に挑戦したい人
- 必要な情報に自分からアクセスして自己の思考で整理し、さらに自ら情報を発信する力を身に付けたい人

経済学部（経済学科）が入学者に求める知識や能力・水準

経済学部経済学科では入学後、以下の教育を実施するために、次に示す知識や能力・水準を入学者に求める。

- 経済の理論・応用や地域の制度・歴史などについてバランスのとれた教育を実施するために、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能の習得を求める。
- グローバル化する経済の仕組みが理解できる教育を実施するために、数理的・論理的な思考力とあわせて、英語による国際コミュニケーション能力と表現力を求める。
- 各国・地域の固有な条件を理解する教育を実施するために、偏見をもたずに多様な人々と協働して学ぶ態度を求める。

経済学部（経済学科）の入学者選抜の基本方針

経済学部経済学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（英語、数学）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、英語と数学の学力を評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（英語または数学）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、英語と数学のいずれかに特に秀でている学力を評価する。

総合型選抜（一般プログラム）

第1次選抜では書類（英語スコア）により選抜を行い、第2次選抜では自己推薦書および他の提出書類により複数の面接員による個人面接試験を行い、熱意と適性を総合的に判断する。大学入学共通テストの成績および第2次選抜の成績により、最終合格者を決定する。

外国学校出身者特別選抜

第1次選抜では出願書類により選抜を行う。第2次選抜では小論文および面接により選抜を行う。小論文では、社会科学に関するテーマについての基本的な理解、見解の独創性・論理性、論文の構成力・表現力等をもって評価する。面接では、外国学校で学んだことや海外体験、そこでの勉強の達成度をどのように自己評価するか、大学で何を学びたいのか、その対象の基礎知識と問題解決能力などを評価する。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試〕）

日本留学試験および TOEFL または TOEIC の成績により第1段階選抜を行う。その第1次選抜合格者に対して集団面接を行い、熱意と適性を総合的に判断する。

経営学部／経営学科

経営学部（経営学科）が求める学生像

経営学部では、経済活動を通じて社会における課題の解決に貢献する人材の育成を目指し、次のような人を求める。

- 消費者や企業等の経済活動に関心を持つとともに、社会において解決すべき課題を自ら発見する意欲を有している人
- 経営学、会計学、マーケティング、オペレーション・マネジメント、ファイナンスといった分野で学習した内容を社会的な課題の分析、および、解決策の導出に生かしたいと考えている人
- 創造的かつ独創的な視点に立ち、社会的課題の解決までの道筋を見出すとともに、その実行に向けて、周囲の人々と共に目標を達成する協調性を備えている人

経営学部（経営学科）が入学者に求める知識や能力・水準

前述の人材育成の目標を達成するため、入学者に対しては、次のような知識や能力を求める。

- 社会における事象を論理的に整理し、定量的に分析するために必要とされる数学的知識。
- フィールドでの情報収集や他者との議論に必要とされるコミュニケーション力。
- 既存の理論を体系的に理解し、応用するための論理的思考力。

経営学部（経営学科）の入学者選抜の基本方針

経営学部経営学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、外国語）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、論理的思考力と国際コミュニケーション能力を重視することに加え、専門教育の基礎となる学力として、数学若しくは外国語を選択させ（ただし DSEP の志願者は数学のみ）いずれかに秀でた人を評価し、合格者を決定する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、外国語）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、論理的思考力と国際コミュニケーション能力を重視することに加え、専門教育の基礎となる学力として、数学及び外国語を選択させ両方に優れた人を評価し、合格者を決定する。

学校推薦型選抜

小論文試験および複数の面接員による個人面接により選抜を行う。

小論文試験では、経営・経済を中心とした社会科学に関するテーマについての理解度・思考力および表現力を評価する。面接試験では、志望動機と企業経営への興味や学問に対する姿勢などを評価し、合格者を決定する。

帰国生徒選抜

小論文試験および複数の面接員による個人面接により選抜を行う。

小論文試験では、経営・経済を中心とした社会科学に関するテーマについての理解度・思考力および表現力を評価する。面接試験では、志望動機と企業経営への興味や学問に対する姿勢などを評価し、合格者を決定する。

社会人選抜

小論文試験および複数の面接員による個人面接により選抜を行う。

小論文試験では、経営・経済を中心とした社会科学に関するテーマについての理解度・思考力および表現力を評価する。面接試験では、志望動機と企業経営への興味や学問に対する姿勢などを評価し、合格者を決定する。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試〕）

日本留学試験および TOEFL または TOEIC の成績により第 1 段階選抜を行い、その合格者に対し、複数の教員による個人面接により選抜を行う。

面接試験では、志望動機と企業経営への興味や学問に対する姿勢などを評価し、合格者を決定する。

理工学部／機械・材料・海洋系学科

理工学部（機械・材料・海洋系学科）が求める学生像

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を探究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっている。そこで理工学部では、実践的学術の国際拠点を目指した教育を実施し、自らの専門分野における専門能力と高い倫理性とともにグローバル適用力を備え、広く科学技術に目を向ける進取の精神に富む人材の育成を目指す。よって次に示す人の入学を求める。

理工学部が求める学生像

- 自然科学の真理探究や独創的なものづくりを通して、自ら成長・発展しようとするチャレンジ精神にあふれ、新しい時代に対応できる理工系のセンスを磨き、国際的視野を持って世の中への貢献を志す人

機械・材料・海洋系学科が求める学生像

- 機械工学、材料工学、または海洋空間のシステムデザインの分野に興味を持ち、ミクロから宇宙までの様々なスケールの事象に対して知恵と技術さらにモノと情報を用いることで、環境に調和した心豊かな社会を構築することに貢献したい人
- 自由と責任を有する大人としての自立性と、基盤となる数学・物理・化学の基礎的能力を持ち、大学において自らの能力を高めようとする意欲を持つ人

理工学部機械・材料・海洋系学科機械工学教育プログラムが求める学生像

- 機械工学に興味を持ち、機械工学の専門知識を用いて環境に調和した心豊かな社会を構築することに貢献したい人

理工学部機械・材料・海洋系学科材料工学教育プログラムが求める学生像

- 材料工学に強い関心を持ち、新材料やその応用技術を開発したいと希望する人
- 物理や化学に基づいた、材料の様々な性質が生み出される仕組みの解明に興味がある人
- 既存の材料や製造プロセスに環境負荷低減技術を積極的に導入したいという意欲にあふれる人

理工学部機械・材料・海洋系学科海洋空間のシステムデザイン教育プログラムが求める学生像

- 環境と調和しつつ世界中を駆けめぐる“未来型の船舶や航空機”、世界中に潜在する海洋エネルギーや海底資源の利用を推進するための“斬新な海洋造物”の設計エンジニアになりたい人
- 海洋から大気圏さらに宇宙を活躍の場とする“船舶、航空機、人工衛星の運用”の最適化を通して、人や物資や情報の流れを作り、世界を1つにすることを目指したい人

理工学部（機械・材料・海洋系学科）が入学者に求める知識や能力・水準

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を探究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっており、実践的学術の国際拠点を目指した教育を実施するために、理工学部では次に示す知識や能力・水準を求める。

理工学部

- 高等学校で学ぶ国語、社会、数学、理科、英語、情報の幅広い基礎的な能力を前提とし、理工学の専門分野の特性を考慮し、数学と理科および英語の知識、技能および思考力を特に重視する。

機械・材料・海洋系学科

- 機械・材料・海洋系の広範な分野の基礎となる数学、物理、化学に関する知識・学力をしっかりと身に付けていることを求める。
- 国際社会で活躍する研究者、技術者を目指すために、英語に関する知識と技能を身に付けていることを求める。

理工学部（機械・材料・海洋系学科）の入学者選抜の基本方針

理工学部機械・材料・海洋系学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会を設け、多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科、外国語）の成績、自己推薦書および調査書の内容を総合的に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科）の成績、自己推薦書および調査書の内容を総合的に評価する。

総合型選抜（材料工学教育プログラム）

第1次選抜では書類審査、第2次選抜では面接試験（口頭試問による学力検査（数学・物理・化学）およびそれらに関する思考力など総合的な能力の検査）により選抜を行い、大学入学共通テストの成績（数学、理科、外国語）により最終合格者を決定する。

総合型選抜（海洋空間のシステムデザイン教育プログラム）

第1次選抜では書類審査、第2次選抜では面接試験（口頭試問による学力検査（数学・物理）およびそれらに関する思考力など総合的な能力の検査）により選抜を行い、大学入学共通テストの成績（国語、数学、外国語）により最終合格者を決定する。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試・渡日前入試〕）

日本留学試験の成績、英語検定試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）の成績、数学の筆記試験、面接試験により選抜を行う。材料工学教育プログラムと海洋空間のシステムデザイン教育プログラムは渡日前入試も実施する。

理工学部／化学・生命系学科

理工学部（化学・生命系学科）が求める学生像

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を探究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっている。そこで理工学部では、実践的学術の国際拠点を目指した教育を実施し、自らの専門分野における専門能力と高い倫理性とともにグローバル適用力を備え、広く科学技術に目を向ける進取の精神に富む人材の育成を目指す。よって次に示す人の入学を求める。

理工学部が求める学生像

- 自然科学の真理探究や独創的なものづくりを通して、自ら成長・発展しようとするチャレンジ精神にあふれ、新しい時代に対応できる理工系のセンスを磨き、国際的視野を持って世の中への貢献を志す人

化学・生命系学科が求める学生像

- 自然の真理追究・ものづくり・エネルギー・環境・安全・生命に関心を抱き、自然科学を真摯に学ぼうとする熱意とそれに相応しい素養を持ち、豊かな 21 世紀における人間社会の構築を目指したいと考えている人
- 向学心に燃え、また発想が豊かで柔軟性のある応用力を発揮できる人

理工学部化学・生命系学科化学教育プログラムが求める学生像

- 化学の基礎知識を十分備え、さまざまな自然科学の知識を活用して、現象の真理を原子や分子レベルから探究することのできる研究者、および最先端化学を駆使することで、地球規模で人類が抱える諸問題解決や新しい機能性材料、エネルギー化学の創造に貢献できる技術者を目指す人

理工学部化学・生命系学科化学応用教育プログラムが求める学生像

- 化学の基本知識を応用し、高度な化学反応プロセスや先端材料、新エネルギー材料の開発、実践的な安全管理や環境創出といった未来社会への課題解決に貢献できる研究者・技術者を目指す人

理工学部化学・生命系学科バイオ教育プログラムが求める学生像

- 生物学、化学、物理学を基礎とする現代生物学の方法を通して生命を理解し、その成果を食糧問題や生命・医療などのグローバルな課題の解決に応用できるバイオ関連の技術者・研究者を目指す人

理工学部学部（化学・生命系学科）が入学者に求める知識や能力・水準

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を探究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっており、実践的学術の国際拠点を目指した教育を実施するために、理工学部では次に示す知識や能力・水準を求める。

理工学部

- 高等学校で学ぶ国語、社会、数学、理科、英語、情報の幅広い基礎的な能力を前提とし、理工学の専門分野の特性を考慮し、数学と理科および英語の知識、技能および思考力を特に重視する。

化学・生命系学科化学教育プログラム／化学・生命系学科化学応用教育プログラム ／化学・生命系学科バイオ教育プログラム

- 高等学校では、化学はもちろんのこと、数学や物理、生物などの基本科目を学び、知識を身に付けていることを求める。
- 国際社会で活躍する研究者、技術者を目指すために、英語に関する知識と技能を身に付けていることを求める。

理工学部（化学・生命系学科）の入学者選抜の基本方針

理工学部化学・生命系学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会を設け、多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科、外国語）の成績、自己推薦書および調査書の内容を総合的に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科）の成績、自己推薦書および調査書の内容を総合的に評価する。

学校推薦型選抜

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、推薦書、調査書および面接により選抜を行う。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試〕）

日本留学試験の成績、英語検定試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）の成績、数学の筆記試験、面接試験により選抜を行う。

理工学部／数物・電子情報系学科

理工学部（数物・電子情報系学科）が求める学生像

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を探究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっている。そこで理工学部では、実践的学術の国際拠点を目指した教育を実施し、自らの専門分野における専門能力と高い倫理性とともにグローバル適用力を備え、広く科学技術に目を向ける進取の精神に富む人材の育成を目指す。よって次に示す人の入学を求める。

理工学部が求める学生像

- 自然科学の真理探究や独創的なものづくりを通して、自ら成長・発展しようとするチャレンジ精神にあふれ、新しい時代に対応できる理工系のセンスを磨き、国際的視野を持って世の中への貢献を志す人

数物・電子情報系学科が求める学生像

- 数学、物理の基本原理を深く理解し、新しい創造的な科学や技術を創出しようとする気概があって、理工学の諸分野で国内外を問わず幅広く活躍して豊かな未来を作り出そうという意欲に満ちあふれた人
- 数学、物理、光や電気・電子、情報について強い関心や高い能力を持つ人

理工学部数物・電子情報系学科数理科学教育プログラムが求める学生像

- 現代の数学である数理科学を縦横に活用して社会に有為な人材になりたい人、また、将来、その発展に貢献することで国際的な活躍をしたい人
- 数学と物理、コンピュータの活用に興味があり、コンピュータグラフィックス、コンピュータシミュレーション、画像処理、数理モデリングなどを用い、世の中の複雑な現象・問題を理解・解決したい人

理工学部数物・電子情報系学科物理工学教育プログラムが求める学生像

- 宇宙、素粒子、様々な物質系などの性質を物理学の手法を用いて探究することに関心のある人
- 物理学を深く理解したうえで、工学の幅広い分野で常に原理に立ち返って新しい科学技術を生み出したい人

理工学部数物・電子情報系学科電子情報システム教育プログラムが求める学生像

- 電気・電子・通信・情報工学などに興味があり、これらの分野の研究者・技術者として、新しい創造的な科学や技術を創出しようとする気概があつて、理工学の諸分野で国内外を問わず幅広く活躍して豊かな未来を作り出そうという意欲に満ちあふれた人
- 電気・電子・通信・情報工学などの分野の研究者・科学者として、社会で役立つ実践力を身に付けたい人
- 高度情報化社会を支える新しい先端技術を作り出すことを目指す人

理工学部数物・電子情報系学科情報工学教育プログラム

- 情報学・情報工学の基礎から応用までを身に付け、自ら先端的な情報理論・処理方式・システムを創造して社会に貢献する意欲を持った人
- 人の優れた知能や能力をコンピュータ・機械で実現し、人を支援することで、人を中心とした豊かで安全・安心な未来社会を実現したいと考えている人

理工学部（数物・電子情報系学科）が入学者に求める知識や能力・水準

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を探究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっており、実践的学術の国際拠点を目指した教育を実施するために、理工学部では次に示す知識や能力・水準を求める。

理工学部

- 高等学校で学ぶ国語、社会、数学、理科、英語、情報の幅広い基礎的な能力を前提とし、理工学の専門分野の特性を考慮し、数学と理科および英語の知識、技能および思考力を特に重視する。

数物・電子情報系学科

- 数物・電子情報系の広範な分野の基礎となる数学、物理、化学に関する知識・学力を身に付けていることを求める。
- 国際社会で活躍する研究者、技術者を目指すために、英語に関する知識と技能を身に付けていることを求める。

理工学部（数物・電子情報系学科）の入学者選抜の基本方針

理工学部数物・電子情報系学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会を設け、多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科、外国語）の成績、自己推薦書および調査書の内容を総合的に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科）の成績、自己推薦書および調査書の内容を総合的に評価する。

学校推薦型選抜（電子情報システム EP）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、推薦書、調査書および面接により選抜を行う。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試〕）

日本留学試験の成績、英語検定試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）の成績、数学の筆記試験、面接試験により選抜を行う。

都市科学部／都市社会共生学科

都市科学部（都市社会共生学科）が求める学生像

都市を担う人間とそれを支える自然環境、社会環境、文化システムなどを対象として、文理にわたる幅広い視点から社会課題を科学的に分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

都市科学部が求める学生像

- 理工系と人文社会系の知識を学ぶことで文理両面やダイバーシティ（多様性）の視点、複眼的思考を身に付けたい人
- ローカル・グローバルにわたる多角的な世界を相互理解できる広い視野をもち、横断的な課題解決能力、総合力を身に付けたい人
- 上記の視点と視野・知識・能力・技術を身に付けて、街づくり、都市文化・社会基盤構築、自然との調和で都市の未来に貢献したい人

都市科学部都市社会共生学科が求める学生像

- 人文社会科学分野の知識や技能を活用し、われわれの未来にとって豊かで美しく、国際的・文化的に魅力のある都市社会の発展に寄与したい人
- 歴史・文化・地域・社会に関する深い理解にもとづいて、現代社会、都市社会の多様な課題を考究し、時代や状況に応じた制度づくりや新しい芸術・文化の構想によってこれからの社会に貢献したい人
- 地球的な視野を持ってダイバーシティ（多様性）がはらむ創造的な可能性、および格差や貧困などの問題を把握し、人間生活の社会の向上のための活動を国内外で行いたい人

都市科学部（都市社会共生学科）が入学者に求める知識や能力・水準

都市科学部都市社会共生学科では入学後、人文社会科学分野の教育を実施するために、次に示す知識や能力・水準を求める。

- 人文社会科学分野の知見（思想・芸術、歴史学、人類学、政治学、社会学など）の教育を実施するために、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提とし、特に国語、社会、外国語の試験を課して、論理的思考力を求める。

- 人文社会科学分野の研究能力（文献読解、論文作成、成果発表など）を養う教育を実施するために、国語、社会、外国語の学力を土台とし、小論文や面接で総合的な設問を課して、視野の広い考察力と表現力、文章構成の能力やコミュニケーションの能力を求める。
- 人文社会科学分野の調査能力（アンケート・インタビュー、統計処理など）の教育を実施するために、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を重視するとともに、各種の情報を処理するために必要な基礎的学力を求める。

都市科学部（都市社会共生学科）の入学選抜の基本方針

都市科学部都市社会共生学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査等（小論文）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に小論文では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力を土台として、論理的思考力と文章構成の能力を中心に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査等（面接）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に面接では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力を土台として、論理的思考力とコミュニケーション能力を中心に評価する。

総合型選抜

第1次選抜では特色活動説明書、学習計画書及び調査書の内容を、第2次選抜では文章実技および面接試験の成績を評価する。特に第2次選抜では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力を土台として、文化的・社会的現象に関するテーマについての基本的な理解、論理的思考力と文章構成の能力、コミュニケーション能力を中心に評価する。第2次選抜の成績および大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）により、最終合格者を決定する。

都市科学部／建築学科

都市科学部（建築学科）が求める学生像

都市を担う人間とそれを支える自然環境、社会環境、文化システムなどを対象として、文理にわたる幅広い視点から社会課題を科学的に分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

都市科学部が求める学生像

- 理工系と人文社会系の知識を学ぶことで文理両面やダイバーシティ（多様性）の視点、複眼的思考を身に付けたい人
- ローカル・グローバルにわたる多角的な世界を相互理解できる広い視野をもち、横断的な課題解決能力、総合力を身に付けたい人
- 上記の視点と視野・知識・能力・技術を身に付けて、街づくり、都市文化・社会基盤構築、自然との調和で都市の未来に貢献したい人

都市科学部建築学科が求める学生像

- 建築の思想を中心に芸術から工学まで幅広く学び、これからの時代を担う建築を都市の中に構想できる創造的な建築家になりたい人
- 自然災害に強く安全な建築や街づくりに貢献したいと願い、そこに集い住まう人たちの生命と財産を守ることができる建築構造エンジニアや建築構造デザイナーになりたい人
- 自然と調和した住空間のデザインスキルを身に付け、地球環境との均衡を保ちつつ人々の健康で快適な生活を実現できる建築環境設備エンジニアになりたい人
- 都市や建築の成り立ちや歴史的変遷を知り、未来社会に向けた持続可能な新しい街づくりを実践できる都市計画プランナーや都市デザイナーになりたい人
- 建築や都市に関する知見を生かして、地域社会や国際社会のファシリテーションやマネジメントに積極的に関わっていききたい人

都市科学部（建築学科）が入学者に求める知識や能力・水準

都市科学部建築学科では入学後、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提に、建築学全般の専門的教育を実施するために、次に示す知識や能力・水準を求める。

- 建築空間・都市空間を、力学的特性・空気・光・音・熱などを含めて、その成り立ちから現状についての確に把握・分析する能力を養成する教育を実施するために、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提とし、特に英語、数学、理科の試験を課して、論理的思考力を求める
- 空間を幾何学的に把握し、力の流れを適切に制御しながら新たな空間を創造する能力を養成する教育を実施するために、数学、物理の学力を土台とし、総合的な設問を課して、横断的な思考力・批評力・表現力を求める
- 建築や都市を創造するためには様々な分野の人々との協力が必要であることから、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を重視し、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を求める

都市科学部（建築学科）の入学者選抜の基本方針

都市科学部建築学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学者選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科、外国語）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、数学、理科、外国語の学力を中心に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、数学と理科の学力を中心に評価する。

総合型選抜

第1次選抜では書類審査および実技（造形に関する思考力・表現力の検査）、第2次選抜では面接試験（口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力の検査）により選抜を行い、最終合格者を決定する。

帰国生徒選抜

第1次選抜では書類審査、実技試験（造形に関する思考力・表現力の検査）および小論文、第2次選抜では面接試験により選抜を行い、最終合格者を決定する。小論文は、建築を中心としたテーマに対する思考力、表現力、独創性・論理性、および、造形に関する思考力・表現力を評価する。面接試験は、海外で学んだこと、大学で学びたいことと海外経験の活かし方の関わりに対する考え、および、口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力を評価する。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試・渡日前入試〕）

大学入学共通テストの代わりに日本留学試験および外部英語試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）を課すことで基礎的知識や技能を確認する。

都市科学部／都市基盤学科

都市科学部（都市基盤学科）が求める学生像

都市を担う人間とそれを支える自然環境、社会環境、文化システムなどを対象として、文理にわたる幅広い視点から社会課題を科学的に分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

都市科学部が求める学生像

- 理工系と人文社会系の知識を学ぶことで文理両面やダイバーシティ（多様性）の視点、複眼的思考を身に付けたい人
- ローカル・グローバルにわたる多次元的な世界を相互理解できる広い視野をもち、横断的な課題解決能力、総合力を身に付けたい人
- 上記の視点と視野・知識・能力・技術を身に付けて、街づくり、都市文化・社会基盤構築、自然との調和で都市の未来に貢献したい人

都市科学部都市基盤学科が求める学生像

豊かで持続可能な生活空間、産業・生産活動の礎を構築するため、技術の限界と不可避なリスクを認識しつつ、都市に関わる幅広いリスクとベネフィットの視点で総合思考し、既存の産業形態にとらわれずイノベティブに、安全で靱性の高い国土基盤、地球環境と経済的効率性のバランスある社会基盤、そして今日的グローバル課題解決に資する国際基盤を実現できる土木技術者を育成する。

- 自然環境との調和や共生など地球的観点に立ってより良い都市や国土の創造に興味がある人
- 地震、台風、火山、豪雨、津波などの自然災害から都市や社会を守るために、土木工学の基礎学理をリスクマネジメントに応用して、防災・減災の取り組みをしたい人
- IT/ビッグデータなどの最先端技術/情報と土木工学を融合させ、社会基盤の整備、維持管理や運用に利活用して、都市や社会生活を豊かにしたい人
- 世界の政治や社会、経済状況に広く関心を持ち、社会基盤整備や地球規模の環境保全を通して、国際的に活躍したい人

都市科学部（都市基盤学科）が入学者に求める知識や能力・水準

都市科学部 都市基盤学科は、強靱な国土基盤、自然環境と経済的効率性が調和した社会基盤、そしてグローバル課題の解決に資する国際基盤を実現するための知識・能力に関する教育を実施するため、入学者に対して次に示す知識や能力・水準を求める。

- 高等学校までに学ぶ数学、理科をはじめとして、国語、地理歴史・公民、英語などの知識を幅広く身に付けている。
- 高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提としつつ、論理的思考力を備えている。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲と、国際的視野やコミュニケーション能力を涵養する強い意志をもっている。

都市科学部（都市基盤学科）の入学者選抜の基本方針

都市科学部 都市基盤学科の入学者選抜では、入学者に求める知識や能力・水準、学習意欲を確認するため、大学入学共通テストおよび個別学力検査などを活用して多面的・総合的に判定を行う。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、数学、理科、地理歴史・公民、外国語、情報）、個別学力検査（数学、理科、外国語）の成績、調査書および自己推薦書を総合的に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、数学、理科、地理歴史・公民、外国語、情報）と個別学力検査（数学、理科）の成績および自己推薦書を総合的に評価する。

総合型選抜

高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提としつつ、論理的思考力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲を評価する。第1次選抜（書類選考）合格者に対して、第2次選抜（面接試験）を課す。さらに第2次選抜合格者に対して、大学入学共通テスト（国語、数学、理科、地理歴史・公民、外国語、情報）を課し、第2次選抜及び大学入学共通テストの成績により評価を行う。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試・渡日前入試〕）

大学入学共通テストの代わりに日本留学試験および外部英語試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）を課すことで基礎的知識や技能を確認する。また、日本語で提供される授業科目を学ぶために必要な日本語能力を求める。

都市科学部／環境リスク共生学科

都市科学部（環境リスク共生学科）が求める学生像

都市を担う人間とそれを支える自然環境、社会環境、文化システムなどを対象として、文理にわたる幅広い視点から社会課題を科学的に分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

都市科学部が求める学生像

理工系と人文社会系の知識を学ぶことで文理両面やダイバーシティ（多様性）の視点、複眼的思考を身に付けたい人

- ローカル・グローバルにわたる多次元的な世界を相互理解できる広い視野をもち、横断的な課題解決能力、総合力を身に付けたい人
- 上記の視点と視野・知識・能力・技術を身に付けて、街づくり、都市文化・社会基盤構築、自然との調和で都市の未来に貢献したい人

都市科学部環境リスク共生学科が求める学生像

- 複雑で多様化した環境リスクに対し、ヒトから都市、自然生態系、地球までのシステム全体を視野に入れた知識展開力を身に付けたい人
- 豊かさと表裏一体で生じるリスクとバランスをとる「リスク共生」社会の実現をめざし、自然環境と社会環境のリスクを科学的に捉える数理的思考力と、ヒト・社会と対話できる社会科学的思考力を併せ持つ文理融合的素養を身に付けたい人
- 都市に恵みや災いをもたらす自然システムや都市や地域に潜む環境リスクを予測・評価・分析し、リスクと共生した持続的発展に貢献できる実践力を身に付けたい人

都市科学部（環境リスク共生学科）が入学者に求める知識や能力・水準

入学後に環境リスク共生学の教育を実施するため、高等学校教育において幅広い基礎的な知識や技能を習得済みであることを前提として、以下に示す知識や能力・水準を求める。

- 環境リスクを扱うために必要な高等学校教育における基礎的でバランスの良い知識・技能を有する人材を求める。さらに英語の試験を課し、グローバルな専門家として活躍するためコミュニケーション能力を求める。

- 自然科学のみならず社会科学も含めて数理的な能力を土台とし、発展させ得る人材を求める。また、主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度を求める。
- ヒトから都市、自然生態系、地球までのシステム全体まで幅広い対象について、強い学習・研究意欲を有する人材を求める。さらに、課題解決のための視野の広い思考力、発想力、判断力、表現力を求める。

都市科学部（環境リスク共生学科）の入学選抜の基本方針

都市科学部環境リスク共生学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学選抜を次のように実施する。

一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、理科、数学、外国語、情報）、個別学力検査（数学、外国語）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、数学の学力を中心に評価する。

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、理科、数学、外国語、情報）、個別学力検査（数学、小論文）の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、数学の学力を中心に評価する。

総合型選抜

第1次選抜では自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価し、第2次選抜では面接で環境学の諸課題に関する理解力および表現力等を評価する。大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、理科、数学、外国語、情報）および第2次選抜の成績により、最終合格者を決定する。

YGEP-N1（私費外国人留学生入試〔渡日入試・渡日前入試〕）

日本留学試験および外部英語試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）の成績の提出を出願要件として課し、基礎的知識や技能を評価し、書類および面接試験により選抜を行う。渡日前入試も実施する。